



となん

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

**よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成**

【学校教育目標】

〔知〕自ら学ぶ意欲を持つ生徒

〔徳〕豊かな心を持つ生徒

〔体〕健康でねばり強い生徒



さきやまようしょう

発行者：校長 崎山 用彰

☆下中だより「となん」は、
学校HPから閲覧可能→



令和7年6月18日（水）

6/15（日）沖縄タイムス「うまんちゅの戦争体験」

『父親と離れ 台湾へ疎開』 下地 シゲさん

今週、下地中学校は「平和について考える週間」です。この活動に因んで、今回は沖縄タイムスの記事「父親を離れ 台湾へ疎開（下地シゲさん）」を紹介します。宮古島市伊良部出身のシゲさんはどんな戦争体験をしたのでしょうか。記事を読み、友だちや家族と話し合ってみましょう。



マラリアに感染し、苦しむ妹の様子を振り返る下地シゲさん＝3日、那覇市首里久場川町

5人きょうだいの一番上の長女として生まれた。宮古島の伊良部島で育ち、伊良部国民学校に入学した。学校が好きて、先生の話しが面白くて、勉強もよくできる方だった。きょうだいの面々を見てもよく、天皇誕生日には学校で紅白まんじゅうがもたらされたので、自分は食べずに家に持って帰って分けた。

小学3年生だった1941年、ハワイで日本軍の真珠湾攻撃が起こった。小学6年生の頃には、先生たちが「宮古も戦争に巻き込まれるかもしれない」と言っていた。

語れども
語れども

うまんちゅの戦争体験 517

父親と離れ 台湾へ疎開

下地シゲさん（92） 宮古島市伊良部出身

台湾での食事は口もおかずの配給があったが、一部屋に母親の姉妹家族の3世帯が

自分たち他にも同じ地域に住むいとこや親戚たちも船に乗って、50人くらいで疎開したと思う。台湾では日本軍の兵隊さんにお茶をすすめる仕事をしていた。学校にも通っていたが、1〜6年生まで同じ教室だったので、本を読むまで自由になっていた。

れない。危ないよとよく口にしてたのを覚えている。母親は疎開したくないと言っていたが、「みんなと一緒に助かろう」との思いから、何とか母親を説得した。44年9月に母親ときょうだい5人、母方の親戚も一緒に台湾へ疎開した。一番下の三男はまだ生まれて5カ月だった。

マラリアの妹 体震える

働き家計助ける

終戦を迎えた45年。10月に親戚全員分の島に帰る旅費を持った叔父が迎えにきてくれた。島に戻ることにした。どうせ戦争に負けるのなら、早く島に戻りたかった。

島に戻ってからは、先生になるために女学校に通いたかったが、家計を助けるため、ミシン学校で裁縫を学んだ。疎開して住み込みとして

住んでいたのが、量が足りず、ひどい思いをした。宮古でもマラリアがはやっていて、台湾でも同じ状況だった。2歳の次女達が感染した。満足に食べさせるご飯もなく、かぶせる布も乏しかった。ガタガタ震えている妹の体の上に乗り、押さえるので精いっぱい。避難所では医者もおらず、薬もない。自然に治るのを待つしかなかった。妹が震えだすと早く元気になるまで、という気持ちで押さえていた。幸い、妹の体調は回復していき、元気になった。

疎開している時は、伊良部島に残って仕事をしていた父親が心配だった。宮古でも10・15空襲があったと聞いた時は父親のことが心配でたまらなかった。焼けた家もあったらしいが、父親も家も無事だと聞いてホッとした。

編集後記

取材のためシゲさんの自宅に行くと、笑顔で迎えてもらい、伊良部の民謡を披露してくれた。いざ戦時中の話を聞くと、表情が一変。声を落として、80年以上前の記憶を振り返るように話してくれた。

が、妹がマラリアに感染した。戦争体験者の話を聞ける時間は、そう長くはない。疎開した人の体験も含めて、多くの証言を集めた。

（政経部・山田優介）
白曜日掲載

☆このポスターを見たことはありませんか？
宮古島市総合博物館では、市制施行20周年記念事業「平和と未来を創る君たちへ」を開催しています（本日五校時「平和学習会」講師の寺崎香織さんからアナウンスがあったと思います）。



「平和について考える週間」では、
◎戦争や平和に関する本の紹介や沖縄戦等のパネル展示（図書館）
◎戦争体験記を読む（朝の読書活動）
などを行います。学びを広げ・深めましょう。

【お知らせ】

☆1年A組に転入生が来ました！「フレイリー・グレイスさん」です。6月から7月までの約2ヶ月間、皆さんと一緒に学習をします。よろしくお祈りします。
☆6/21（土）地区英語パフォーマンスコンテストに根間萌瑛さん（3A）が出演します！